

英語学専攻（語学領域）

解答例・出題意図

問題 II

出題意図

専門分野の研究に必要な分析力をみる。

解答例

1

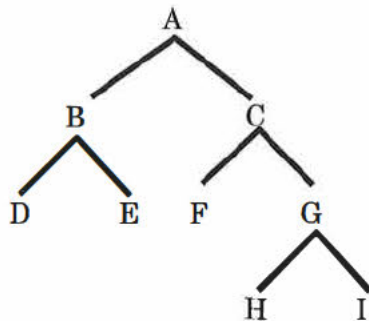
（注：該当する現象には束縛、否定極性、数量詞の作用域などがある。ここでは一例として束縛を用いるが、他の現象を用いて説明しても構わない。）

c 統御とは、句構造上の節点同士の位置関係の一種であり、次のように定義される。

(1) 節点 X は自分と同位関係にある節点 Y および節点 Y が支配する全ての節点を c 統御する。

これに基づいて次の構造における節点 B が c 統御する節点を特定してみよう。

(2)



B と同位関係にある節点は C である。これを(1)にあてはめると次のようになる。

(1) 節点 B は自分と同位関係にある節点 C および節点 C が支配する全ての節点を c 統御する。

C が支配する節点は F、G、H、I である。したがって、B は C、F、G、H、I を c 統御する。

c 統御は照応形の分布を決定する上で重要な役割を果たす。下記の(3)(4)は照応形の一種である再帰代名詞が同一節内で先行詞を持たねばならないことを示している。

(3) [The president_i likes himself_i].

(4) *The president_i believes [that Mary likes himself_i].

単文である(3)では、再帰代名詞 himself とその先行詞 the president が同一節内にある。一方、(4)では先行詞が主節にあるのに対して再帰代名詞は従属節にある。この場合、再帰代名詞は先行詞に束縛されることができず、非文となる。

再帰代名詞とその先行詞が単に同一節内にあれば適格になるというわけではない。次の文は(3)と同じく単文であり、再帰代名詞とその先行詞が同じ領域内に入っているが、非文である。

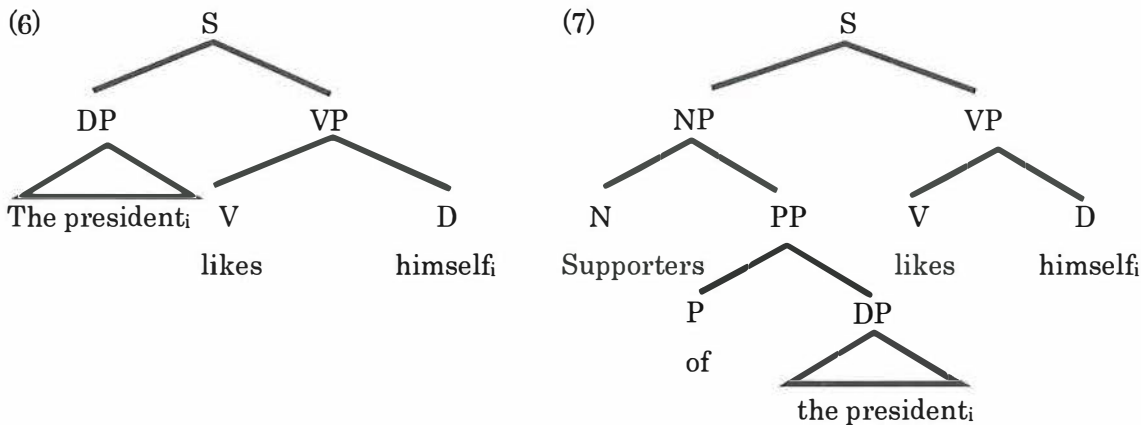
英語学専攻（語学領域）

解答例・出題意図

(5) *[Supporters of the president_i likes himself_i].

(3)と(5)の違いは、先行詞 the president による再帰代名詞 himself の c 統御の有無によるものである。

この点を下記の樹形図で確認してみよう。(6)は(3)の、(7)は(5)の構造を示している。(注：先行詞 the president と再帰代名詞 himself の c 統御関係を示すことができれば、樹形図の細部にバリエーションがあってもよい。例えば、この解答例では文を S としているが、TP や IP 等を用いた樹形図であっても構わない。)



(6)と(7)は主語名詞句の構造のみが異なっている。(6)において、節点 DP (the president)の同位節点は VP である。この VP は節点 D(himself)を支配する。したがって、DP(the president)は D(himself)を c 統御している。一方、(7)においては、節点 DP (the president) の同位節点 P(of)は節点 D(himself)を支配していないので、DP(the president)による D(himself)の c 統御が成立していない。以上のことから、再帰代名詞が先行詞によって適切に束縛されるには、単に両者が同一節内にあるだけでなく、再帰代名詞が先行詞によって c 統御される必要があることがわかる。

2

(a)はハイジャック犯が自ら操縦して航空機を他国に着陸させたことを表すのに対して、(b)はハイジャック犯が（操縦士に）命じて飛行機を他国に着陸させたことを表す。どちらの文も使役的な意味合いが伝えられる点では同じであるが、(a)では"the plane"は動詞 land の直接目的語にあたり、主語から直接的な影響を受けて、つまり主語が目的語にあたる航空機を操縦して、着陸させたことが読み取れる。(c)は(a)と同じ構造で、機長が飛行機をハドソン川に（安全に）不時着水させたと解釈できる。これに対し、(b)は迂言的な構造を持っており、ハイジャック犯が直接的な影響を与えたのは航空機自体ではなく、航空機が他国に着陸する ("the plane land in another country") という事態に対してである。つまり、その事態を引き起こしたのはハイジャック犯だが、当該の飛行機をハイジャック犯が操縦したとは言っていない。迂言的な形式に見合った持つて回った状況—ハイジャック犯が操縦士たちに命じて無理やり着陸させた—が意味されることになる。これは同じ構造を持つ(d)についても言えることで、そこでは戦闘機2機がスクランブル発進して当該の航空機をヴァンクーバー島に着陸させたことが表現されている。

英語学専攻（語学領域）

解答例・出題意図

3

語をはじめとする言語表現の意味は、前提となる知識との関連で構造化されている。*bachelor* は、英語圏における〈結婚〉制度についての知識が前提となり、その中で、[HUMAN BEING] [MALE] [ADULT] [UNMARRIED] を満たす人物のうち、「女性から見て結婚の相手として考慮に値する男性」が *bachelor* と呼ばれる。

ローマ教皇が [HUMAN BEING] [MALE] [ADULT] [UNMARRIED] を満たすにもかかわらず *bachelor* と呼ばれにくいのは、このことから説明される。教皇をはじめとするカトリックの聖職者は、生涯独身であることが求められる。すなわち、〈結婚〉という制度の枠の外にある存在である。このことから、〈結婚〉を前提とする語である *bachelor* は適用しにくいことが説明される。

(1) の例も、上の記述で説明することができる。(1a) の an eligible bachelor は、「結婚相手としてふさわしい独身男性」という意味である。[HUMAN BEING] [MALE] [ADULT] [UNMARRIED] だけでは、「どのような点で eligible なのか」が説明できない。〈結婚〉制度についての知識を前提としたうえで、[HUMAN BEING] [MALE] [ADULT] [UNMARRIED] を満たす人物のうち、「女性から見て結婚の相手として考慮に値する男性」が *bachelor* であるという記述ならば、「結婚相手として eligible」ということが適切にカバーされる。

(1b) についても同様である。*bachelor* は、「結婚していない（大人の）男性」なら誰でもよいわけではなくて、「女性から見て結婚の相手として考慮に値する男性」なのである。

4

The Japanese phrase “my wallet is lonely” means that my wallet is empty. It is a type of personification metaphor where the target is the wallet and the source is a human. Humans can be lonely when they are isolated from people like their friends or family. When transferred to the wallet, this means that the wallet is isolated from the object that it is supposed to be close to (e.g., money). For example, a wallet could be lonely even if it is full of paper, because this is not the proper object for a wallet.

The phrase “my computer is lonely” is also a type of personification, where the target is the computer and the source is a human. This is different from the wallet example, because lonely here refers to isolation from humans, while in the case of a wallet, it is isolation from an object. This phrase is closer to the meaning when we talk about human being lonely (e.g., he is lonely = he is isolated from humans).

Processing “my wallet is lonely” requires an extra step of linking the wallet to the source and understanding what lonely means in the context of the wallet, so it could be more complex than understanding the literal sentence “my wallet is empty”. But since this metaphor is frequent in

2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

英語学専攻（語学領域）

解答例・出題意図

Japanese, it is possible that it is processed as quickly as a literal sentence. When you hear a new personification metaphor like “my robot vacuum is picky”, you must link the target vacuum to the source concept of human. Then understanding that picky people are people that are hard to predict, you can understand that the vacuum does not clean in a way that is predictable. If the abstract schema for personification is a frequently used schema, it is possible that people will understand the metaphor as quickly as a literal phrase (my vacuum cleans in a random manner) even though it is novel metaphor.

2026 年度（第 2 次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

英語学専攻（語学領域）

解答例・出題意図

問題Ⅲ

出題意図

英語の表現力をみる。

解答例

[Redacted content]

英語学専攻 (語学領域)

解答例・出題意図

問題IV

出題意図

専門分野の研究に必要な知識を問う。

解答例

(1) *do support*

否定文、疑問文、強調文、および動詞句が省略された文などで助動詞 *do* が用いられる現象のこと。生成文法では、機能範疇主要部 INFL (あるいは T) に含まれる時制接辞を適当な(助)動詞に付加する操作の 1 つとされている。接辞付加のための操作には、動詞を INFL/T に上昇させる操作と接辞を動詞に下降させる操作があるが、*do* 挿入はそのどちらも利用できない場合に最終手段として用いられると考えられている。

(2) *bridge verb*

動詞の中には補文内要素の抽出を許すものと許さないものがある。補文からの抽出を許す動詞を架橋動詞 (*bridge verb*) といい、*believe* や *think* などがその例である。たとえば、これらの動詞の補文からは “What do you think [that John bought]?” のように *wh* 句を取り出すことができる。一方、*whisper* や *grumble* などは補文からの抽出を許さない。したがって “*What did you whisper [that John bought]?” のような文は不適格となる。

(3) *specifier*

X バー構造において中間投射の姉妹となる節点のこと。この位置には、たとえば NP における決定詞のように、主要部に一定の制限を加える性質を持つ要素が生起する。指定部に生起する要素は投射によって異なり、TP の指定部には主語名詞句が、CP の指定部には *wh* 句が生起する。

(4) *garden-path sentence*

袋小路文。整合する解釈を得るためには、当初の読みを捨てて、新たに解釈し直さないといけない文のことを言う。たとえば、 “The old man the boat.” という文においては、 “the old man” というまとまりでまず解釈してしまうが、整合する読みに至るためには *man* を動詞として解析し直さないといけない。

(5) *code-switching*

複数の言語 (もしくは言語変種) を話す話者が、話し相手の状況や自分との関係、発話の意図など、

2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

英語学専攻（語学領域）

解答例・出題意図

その場の目的に応じて一つの言語（変種）から別の言語（変種）に切り替えることを指す。

(6) cataphora

後方照応。代名詞や指示語などの指示表現がディスコース上に先に提示され、その指示対象となる名詞句などが後で提示される現象を指す。たとえば、"If you want them, there are cookies in the cupboard."では、指示代名詞 "them" は後続の"cookies"のことを指している。

(7) family resemblance

家族的類似。あるカテゴリーの成員全体に共通する定義的特徴はないが、一部の成員同士が共有する特徴はあり、そのような局所的な繋がりが重なり合うことでカテゴリーが形成される状態。父と娘は目が似ている、娘と息子は鼻が似ている、息子と母は口が似ている、だが父と母は（もともと他人であるため）どこも似ていない、というような家族のあり方に、カテゴリーの構造をなぞらえた用語。Wittgensteinによる用語である。

(8) polysemy and homonymy

多義と同音異義。単一の言語形式に慣習的に複数の意味が結びついている場合、その複数の意味の間に繋がりがあると想定される場合を多義 (polysemy) と呼び、繋がりが想定できない場合を同音異義 (homonymy) と呼ぶ。多義は、単一の語 (多義語) に複数の意味がある状態であり、同音異義は複数の語 (同音異義語) に複数の意味がある状態である。たとえば、see に「見る」と「会う」の意味があるのは多義であり、see「見る」「会う」と sea「海」の関係は、同音異義である。

(9) pragmatic strengthening

語用論的強化。Traugott の主観化 (subjectification) の一段階で、語用論的な解釈・推論によって、ある言語形式に、もともと存在しなかった意味が読み込まれること。たとえば、I have done quite a bit of writing since we last met. の since は、元からの意味である時間関係を表すと解釈されるが、Since Susan left him, John has been very miserable. の since は、時間関係に加えて因果関係を読み込むことができる。これが語用論的強化である。このような語用論的な解釈が慣習化し、言語形式それ自体の意味として定着することで意味の拡張・変化が生じる。これが主観化である。Since you are so angry, there is no point in talking with you. における、純粹に因果関係を表すと解釈される since が、この段階にある。

(10) Anterograde Amnesia

A brain condition where you are unable to create new memories after the event that created the amnesia. Unlike retrograde amnesia, you can remember your past like a normal person. A famous example is the patient HM, who had his hippocampus removed and had anterograde amnesia from that point on.

2026年度（第2次）神戸市外国語大学大学院 入学試験

英語学専攻（語学領域）

解答例・出題意図

(11) Behaviorism

A theory of psychology which focuses on observable behaviors such as stimuli and responses. Internal mental states were considered unscientific in this theory.

(12) Chunking

Chunking is memory strategy where smaller units are combined together into larger units that more meaningful. For example, it might be hard to remember a list of numbers like 79416031868, but it is easier if you break it up into three meaningful chunks 794 (start of Heian period) 1603 (start of Edo period) and 1868 (Meiji restoration).